

科目名	国際法Ⅶ（国際機構法）						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	法学部	配当年次	2 年次	単位数	2 単位
教員名	戸田 五郎						

授業概要／Course outline

近代以降、国際関係が緊密の度合いを増すと共に、数多くの国際機構が設立され、更にはそれらを通じた国際社会の組織化が進展してきた。国際機構はそれ自体国際法上の法人格を有し、国家と並んで国際社会における主要なアクターのひとつとなっている。この講義では、国際連合を中心とする国際機構を国際法の視点から様々な分析し、国際社会における国際機構の地位と役割を明確にするとともに、国際社会の組織化の将来を見据える機会を提供することを目的とする。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- オンデマンド授業は、moodleで行う。内容に関する質問は授業の前後又はメールで受けつける。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回：国際機構の歴史（指定教科書2～18頁）
 第2回：組織としての国際機構（19～34頁）
 第3回：国際公務員（35～50頁）
 第4回：国際機構の財政（51～67頁）
 第5回：国際機構の意思決定（68～81頁）
 第6回：安全保障・軍縮（82～98頁）
 第7回：人権・人道（99～117頁）
 第8回：経済・貿易・通貨・開発（118～133頁）
 第9回：文化・知的協力（134～151頁）
 第10回：環境（152～170頁）
 第11回：運輸・通信（171～186頁）
 第12回：保健衛生（187～202頁）
 第13回：紛争解決（203～215頁）
 第14回：国際機構のパートナー・国際機構と日本（216～238頁）
 ★オンデマンド（5～10分、毎回、課題の提出期限後に配信） 復習課題・予習課題の解答・解説を行う

事前・事後学修／Preparation and assignments

事後学修：第1回～第14回—moodle上で出題する復習課題（授業を聴いたことを前提として解答する問題（論述））を設定された期限（授業の翌々日とする予定）までに提出する。

事前学修：第2回～第14回—moodle上で出題する予習課題（教科書の次回範囲を読んで解答する問題または判例を読んで解答する問題（論述））を設定された期限（授業の翌々日とする予定）までに提出する。

事前学修・事後学修はそれぞれ、100分は必要である（時間外学修時間合計2,700分）。上記内容を確認のうえ、確実に行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

受講者は、国際法に対する理想主義的・ユートピア的なアプローチを排する一方、懐疑主義的・悲観的な見方をも排し、国際社会における国際法の機能の実際を適正に理解することができる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

・ 主体性

専門知識・専門技能

【法学部 法律学科】

・ 法律学・政治学の基礎知識

【法学部 法政策学科】

・ 法律学・政治学・政策学の基礎知識

履修上の注意／Special notes, cautions

レジュメをmoodle上に置くので、受講者各自でダウンロードの上印刷して授業に持参すること。授業は、予習課題に取り組んだことを前提として進める。

評価方法／Evaluation

国際法の当該分野に関する基礎知識を前提に、国際社会における国際法の機能を適正に理解し、自ら考えることができるかどうかを、以下の方法で評価する。
復習課題・予習課題30%、期末試験（論述式）70%

教 材／Text and materials

教科書：横田洋三（監修）『入門 国際機構』法律文化社（2016年）
参考書：浅田正彦（編集代表）『ベーシック条約集（2026）』（東信堂，2026年）

質問や相談の方法／Instructor contact

moodle上に設定する質問用フォーラムまたは担当教員宛電子メール、オフィスアワーを利用のこと。